

## 第16回 国立大学法人信州大学学長選考・監察会議 議事要録(案)

日時 令和8年1月28日(水) 14時10分～16時30分  
場所 本部管理棟5階第一会議室 (WEB会議システムを併用)  
出席者 上野, 小川, 神田, 熊谷, 白鳥, 徳楽, 中島 (議長), 野原, 萩本, 金井, 西,  
廣瀬, 玉木, 奥山, 香山, 米倉, 村上, 永松 各委員  
欠席者 なし  
陪席 空閑監事, 廣田監事

議長から、本会議の委員であった太田寛委員が、令和7年11月28日、急病によりご逝去された旨の報告並びにこれまでのご尽力への感謝及び哀悼の言葉があった。

### 新委員の紹介

議長から、新たに委員に就任した白鳥委員の紹介があった。(白鳥委員から挨拶)

### 配付資料の確認

### 議事要録の確認

議長から、前回の会議において、第12回から第14回までの議事要録が承認されており、本日は、配付している当該議事要録の確定版を確認いただきたい旨の依頼があった。

## 議 題

### 1 令和7年度学長の業務執行状況の確認について

議長から、資料No.1-1及び1-2に基づき、令和7年度の学長の業務執行状況の確認について説明があった。このうち、当該確認は、資料No.1-2のとおり第12回本会議で承認された手順に則り、前回の本会議において学長との意見交換等を基に行われ、本日は、その記録である資料No.1-1「第15回国立大学法人信州大学学長選考・監察会議議事要録(案)」の確認をもって、学長の4年目の業務執行状況の最終確認としたい旨の説明があった。

引き続き、意見交換が行われ、複数の委員から、当該議事要録(案)中、「学長選考・監察会議委員による意見交換」において、当該意見交換において取り上げられた幾つかの主なテーマを付け加えるべきであるとの提案がなされ、審議の結果、議長から、次回の本会議において当該テーマを追記した当該議事要録(案)を確認した上で、最終的に令和7年度の学長の業務執行状況の確認としたい旨が提案され、了承された。

### 2 学長選考について

議長から、資料No.2-1-1から2-3-5に基づき、本学における今後の学長選考の在り方について意見交換を行いたい旨の説明があった。引き続き、事務局から当該資料に基づき、各国立大学法人における学長の任期、再任の可否、意向調査等の状況等について説明があった。

続いて、議長から、追加資料で示した①現状認識(本学を取り巻く現状の課題と、今後の将来像(ビジョン)について)、②リーダー像(その課題を解決するために、次期学長に求められる資質・能力とは何か)及び③制度の方向性(①及び②を踏まえ、他大学の状況も参考にしながら、学長任期を含む学長選考のあり方の検討)の3つのステップで意見交換を進めていきたい旨及び本日は特に①現状認識について各委員から意見を伺いたい旨の説明があった。

続いて、各委員から一人ずつ意見が述べられた後、種々意見交換が行われ、主に以下のような趣旨の意見が出された。

【大学の存続と持続的発展について】

- ・ J-PEAKS等の大型事業採択は過去からの蓄積の成果であり、これらを一時的なものに終わらせず、第5期中期計画以降の財政基盤や発展に繋げる具体策が求められる。
- ・ 大学淘汰の時代において、アドミッション体制の強化は最重要課題である。

**【教育・研究のあり方と資源配分について】**

- ・ 近年の研究力向上は評価されるが、その基盤となる学部教育・教養教育も重要である。優秀な大学院生を育成するためにも、1年次からの教育体制の再整備が必要である。
- ・ 研究費獲得などの短期的成果に偏らず、将来の大学を支える人材育成や基礎研究に対し、バランスの取れた資源配分を行うべきである。

**【次期学長に求められる資質とリーダーシップについて】**

- ・ 2040年に向けたビジョンを継承しつつ、激動する社会情勢や国際競争の中で、信州大学をさらなる発展に導く強いリーダーシップと広い知見が必要である。
- ・ 多様な部局・キャンパスを統括するマネジメント力が不可欠である。教職員との丁寧なコミュニケーションを通じて信頼関係を再構築し、大学一丸となって改革を推進できる人物が望ましい。
- ・ 長野県や民間企業との共創、グローバル化を重視し、外部視点を取り入れた開かれた大学運営を行う必要がある。

**【学長任期および選考制度のあり方について】**

- ・ 改革の継続性の観点から、現行の学長任期6年（再任なし）は短いのではないか。
- ・ 学長任期については、1期6年再任無しの大学が多く、本学の任期の取扱いは一般的である。
- ・ 次回学長選考で選ばれた者から先の任期等を論点に議論をしたほうがスムーズに進むのではないか。
- ・ 任期の議論は個人の資質ではなく、制度が人の行動を規定するといった組織論の問題と認識しており、慎重に制度設計を行うべきである。
- ・ 委員は部局の利益代表ではなく、全学的な視点で審議に臨むべきである。
- ・ 学長には教職員からの理解と広い支持が必要であり、客観的な指標に基づいた透明性の高い選考が求められる。

引き続き、種々質疑応答が行われ、議長から、議題3「次期学長選考手続きについて」は時間の関係上、本日の審議事項とはしない旨の説明があった。

また、今後は、議題2の第1ステップの検討の続き、第2ステップ、第3ステップの順で検討を進めていく旨、今後の日程として、令和9年1月下旬の学長選考候補者へのヒアリング、令和9年2月下旬から3月上旬の学長候補者決定のための選考審査がタイムリミットであることを考慮し、本会議の臨時開催の可能性がある旨、また、当該臨時開催の日程等の計画立案については議長と事務局が提案し、実施にあたっては各委員の都合を考慮し、原則として全員参加としたい旨の説明があった。

**次回の開催について**

令和8年3月25日（水）に松本キャンパスで開催（原則対面）を予定。

以上